

お客様各位 元気通信



ひとほど酒
の具合は、人肌が良いでしょうか。
辛口はやや熱めの燗。甘口はぬるめの燗。
今月の「酒」占いできめて見ますか？

— 脳みそに汗をかく！ —

お元気ですか？本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は大洪水に台風、大地震と相次いで自然災害に各地が見舞われ、被災された方々が本当に多くの痛み思いをしております。

幸いにして弊社は被害にあうことなく過ごすことができましたが、日頃の備え、いざというときの行動はどうかなどの危険回避シミュレーションが全くなされていないことに改めて気づかされました。

さて弊社は1月1日より第29期に入りました。長期5ヶ年計画のラストイヤーであり、また次なる5ヶ年計画作成の年です。

毎年秋が近づいてくると次年度の計画を考案するのに結構時間がかかり、頭を悩ませるのですが、今年はまだ「脳みそに汗をかく」ことになりました。

これは私の尊敬する、ある経営者から言われた言葉です。

「考えて、考えて、考え抜いて、まさに脳みそから汗が出る思いをするほど考えなさい、知恵と工夫をしなさい、よい知恵が浮かばないのはまだ考えが足りないからだよ」う、キビシイ・・・。

経営セミナーなどで講師の話の聞き、経営知識や経営手法を知る

ことはできますが、それを活かすのが知恵だと言います。私もわりとこういったセミナーを受講する機会に恵まれているほうですが、知識を得ても、まだまだ知恵と工夫が足りないようです。

なにはともあれ、今年も皆様から元気をいただきながら顔晴って行きたいと思えます。



日本の野鳥シリーズ

オシドリが庭で……

生産部 佐藤 弘

繁殖しちゃったと、旧知のツバメ研究者木下氏から電話をもらった時はたまげた。00年は12個、01年は8個の卵を産んだと言う。

オシドリは水鳥なのに高木のウロに営巣し、まだ飛べないヒナは広げた両翼をブレーキに飛び降りて巣立つ等、当時誰も知らない事を教えてくれたのは、皇居でその様子を観察なさった昭和天皇だった。それまでは山奥で繁殖すると思われていた

木下氏の壮大な屋敷は魚沼コシヒカリがとれる田園の山際にある。01年秋、ちょうど10年ぶりに彼を訪ねた折、巣穴に案内してくれた。杉木立の中にある老梅のウロがそれで、地上2.7mの高さだと言う。なぜ分かったかという私の問いに、たまたま下を通ったら雄が飛び出したとの答だった。それまで雄のあのド派手な姿に、彼はもとより悪賢く巣を狙うカラスが気づかなかったとは、ことによると繁殖期の本種はノクターナル（夜行性）かなと思えてくる。

さて、仲睦まじく連れだって歩く夫婦はオシドリに例えられる。しかし不粋を承知で言えば、生涯添いとげる鴛鴦の契りとなるとどうやら人の思い込みらしい。同じ型の遺伝子を持つ子が増えると、いわゆる血が濃くなるので天の摂理が働くのだろうか。これに対して、ハクチョウやタンチョウなど少子型の種は雌雄が生涯連れ添うと言われる。

木下氏は研究成果を発表し、今はツバメの戸籍簿を作成中だ。彼によれば、変装しても夜中でも彼を見ると巣から逃げ出す満11才の雄ツバメがいる。その個体は捕らえられ体重や各部を計測された前年を、彼の目鼻立ちと共に毎年記憶している訳で、「私の方もあいつに完璧に個体識別されている」と彼は笑う。

酒蔵さんとの長ーいおつきあい

第3話

新洋技研工業(株) 代表取締役 大辻英郎

「空調ハンドブック」の付録についている空気線図はまことに有難い1枚の紙。その紙を開くと-5℃から+36℃くらいまでの空気の状態が読みとれるようになっている。「麹室」に入り温湿度計を見してみる。乾球温度32℃、湿球温度24℃、乾湿差8℃で突破精麹の育成に丁度良い環境にあると安心する。4時間後に麹の最高温度を43℃にもっていくには理想的な現在の状況だが、これから麹は発熱速度を増し、それに伴い水分を空気中に放出していくことになる。

仲仕事を終えて天窗の引戸を指2本多く開き、換気量を増やすようにしよう。

さあ、その時の室内空気はどれくらいの水を含んでいるのだろうか。取り入れる室外空気は5℃で関係湿度は70%。この時の空気はどれだけの水を含んでいるのか、空気線図に引いてある横の線、縦の線、そして曲線をたどっていくと数字が読みとれ、ヒーターでどれだけ加熱すればよいのかなどすべて読みとれる。

また蔵の冷房設備の能力計算にも冷蔵庫の設計にも欠くことのできないこの「1枚の紙」は想像力を豊かに、そして確実に教えてくれる。

弊社の社員が伺ったらその「空気線図」なるものをちょっと見せろと言って下さい。そしてそれを片手に麹室へと足を運んでみてください。目に見えない空気の世界が映し出されます。麹の手ざわり、香り、ふくらみを感じた貴方はきっとより良い原料米がほしくなることでしょう。

次号へつづく

越後七不思議

- 1. 繫ぎガヤ (天然記念物) 糸を通したような穴のある実のなるカヤの木。**
農民が年貢米の代わりに糸で繫いだカヤの一粒を、親鸞聖人が地に植えて仏縁を説かれたところ、不思議に芽を出し実を結んだと伝えられています。
- 2. 片葉の芦 葉が片側一方向にだけ伸びるアシ。**
親鸞聖人が神社に参詣し「わが念願を守りて、その奇端をあらわし給え」念じたところ、池に生えるアシが一夜にして「片葉」になったと伝えられています。

「〇〇さん」のラーメン

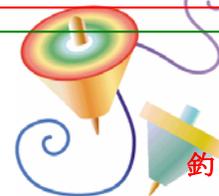
至ッセイ 島貫 修一

なんだろうこの臭いは。店に入ったとたん何か動物的な臭いが鼻に飛び込んできた。会津地方の写真撮影で会津若松市のビジネスホテルに泊まり、夕食を食べようとホテルの近くの小さなラーメン店に入った。中はカウンターのみ6席だけで中年の男性が一人で調理していた。ラーメンを注文すると麺を茹でて丼に入れ、そこに奥の大鍋からスープをお玉で掬って丼に注いだ。

これだ、この臭いだ。大鍋の中には肉やら骨やら色々なものがぐつぐつと煮込んであり、その臭いが店内に充満していたのだ。出されたラーメンのスープを一口飲んでみて驚いた。濃厚な動物質のうまみが口の中に広がり、こんな美味しいラーメンは初めて食べた、そしてラーメンはスープが命だと感じた。

これでやみつきになり以後15年程この店に通った。その後店は郊外に移ったが私も忙しくなり、1回しか行ってない。ラーメンブームの現在、多くの有名ラーメンを食べてみたが、このラーメンに勝る物には出会ってない。

注) 大切にしたい味なので店名は秘密です・・・でも地元のラーメン好きの人なら判ると思います。なぜなら店名は「〇〇さん」で〇〇は店の主人の姓だからです。



おもしろかった本

釣りバカ日誌 「ハマちゃん流」

皆さんお馴染みハマちゃんこと西田敏行、スーさんこと三国連太郎演じる「釣りバカ日誌」ですが、これを組織学にあてはめた本がありました。本の表紙にもありますが、「そんなバカな」こと、と思いつつ一気に読んで何故か納得させられた私なのでした……………

著者 : やまさき十三・淡輪敬三

発行者 : 小林俊太

発行所 : 日本経済新聞社

